

旭川医大病院ニュース



編集 旭川医科大学病院
広報誌編集委員会委員長
谷野美智枝

<https://www.asahikawa-med.ac.jp/>

報告

オープンホスピタル2025 ―大学病院で医療職の体験しよう！―

副病院長・看護部長 井戸川 みどり

昨年に続き、今年も「オープンホスピタル2025」を9月27日(土)に開催しました。本イベントは、地域の若者に医療や看護への関心を高めてもらうとともに、旭川医科大学病院で働く医療職の姿を地域に発信することを目的としています。今年度は内容をさらに充実させ、午前・午後の2部構成で実施しました。

第一部では、医療職を目指す大学・専門学校生を対象に「他職種体験」を実施しました。看護師志望の学生が薬剤師体験、臨床工学技士志望の学生が理学療法士体験を行うなど、他職種の業務を体験することで、チーム医療への理解を深める貴重な機会となりました。参加者からは「他職種の役割や連携について知ることができた」「実践に役立つヒントが得られた」などの声が寄せられました。

第二部では、旭川市および近隣地域の中高生と保護者の皆様が参加しました。イベントでは、各医療職による体験ブースやスタンプラリー、白衣での写真撮影会、進学相談会などが行われました。一部ではありますが、看護師体験では手浴、薬剤師体験では調剤、リハビリ職体験では機能訓練、診療放射線技師体験ではレントゲン撮影、臨床検査技師体験では血液標本観察、臨床工学技士体験では人工呼吸器の見学、栄養士体験ではインボディ測定などが行われ、どのブースも活気にあふれていました。

参加した中高生からは、「医療現場の仕事への理解が深まった」「実際の雰囲気や仕事内容が知れた」との感想が寄せられました。今回の体験を通じて、医療の仕事に興味を持ち、将来の進路として医療職を目指すきっかけとなることを期待しています。

第一部は38名、第二部は中高生71名と保護者17名、あわせて126名と多くの皆さんにご参加いただきました。本イベントは、各職種のスタッフの協力によって成り立っており、地域と病院をつなぐ大切な機会となっています。今後も地域の未来を見据え、医療の魅力を次世代へとつなげていく取り組みを続けてまいります。



▲ 薬剤師体験の様子



▲ 診療放射線技師体験の様子



▲ 看護師体験の様子



▲ 来年もお待ちしております！

今号の掲載記事

- オープンホスピタル2025 ―大学病院で医療職の体験しよう！― …… 1
- 【新しい診療のご案内】
 - 小児肥満症に特化した「からだサポート外来」の開設 …… 2
 - 間質性肺炎外来を新設しました！ …… 2
 - 耳管開放症に対する耳管ピン治療を開始 …… 3
 - がん患者サロン「ほっとピア」「ほっとピアセミナー」 …… 3
- 【報告】令和7年度第1回医療的ケア児支援講演会 …… 4
- 【報告】夏休みキッズスクール開催 …… 4
- 【報告】クリニックラウンがやってきた！ …… 4
- 【報告】第1回ドクターカー事例検討会を開催 …… 5
- 【報告】多職種交流会を開催しました …… 5

- 【シリーズ・診療科紹介】
 - 内科（糖尿病・内分泌内科）／（リウマチ・膠原病内科） …… 6
 - 内科（消化器内科）／（血液内科） …… 6
- 【薬剤部】新薬紹介（88）パチロマーソルピテクスカルシウム …… 7
- 【臨床検査・輸血部】全診療科の外来患者を対象としたスクリーニング超音波検査の運用開始 …… 7
- クラウドファンディング 地域医療を守るため、ともに走ろう！ …… 8
- 【報告】旭川市と共催「地域からはじめる意思決定支援セミナー」 …… 8
- 患者数統計 …… 8
- 時事ニュース …… 8
- 編集後記 …… 8

新しい診療のご案内

小児肥満症に特化した「からだサポート外来」の開設

小児科 講師 鈴木 滋

北海道の小中学生の肥満率は約15%と全国平均より高く、将来の健康への影響が懸念されています。子どもの肥満は、その多くが成人肥満へ移行し、糖尿病や高血圧といった生活習慣病につながる可能性があるだけでなく、小児期から脂肪肝などの合併症が隠れていることも少なくありません。本年4月より旭川市教育委員会と旭川小児科医会が連携し、市内15の小中学校をモデル校として、成長曲線を用いた新たな学校健診が導入されました。これにより、肥満のお子さんを早期に発見し、かかりつけ医を経て専門医へつなぐ、地域一体となった連携体制が構築されました。このような背景のもと、当院小児科では8月1日より小児肥満症に特化した専門外来「からだサポート外来」を開設いたしました。当外来は、お子さんの心身の健やかな成長を第一に考え、無理なく前向きに取り組めるサポートを提供することを目的としています。当外来の特長は、医師・看護師に加え、栄養士、運動の専門家である理学療法士が「チーム」として多角的な視点からきめ細やかにサポートする点にあります。超音波や体組成計などの低侵襲な検査でお子さんの成長や体質、合併症のリスクを正確に評価し、ご家庭で実践できる食事の工夫や運動のコツを、お子さん・ご家族との対話を大切にしながら一緒に考えていきます。

開設から1か月、既にかかりつけ医の先生方からのご紹介があったほか、外来の情報を知った保護者の方から直接受診を希望されるケースもあり、地域の皆様の関心の高さを実感しております。今後も専門外来として、将来の合併症リスクを減らす小児期からの予防医療を広め、小児肥満症の診療に貢献していきたいと考えております。

間質性肺炎外来を新設しました！

呼吸器内科 特任助教 木田 涼太郎

2025年4月より、呼吸器内科は「間質性肺炎外来」を開設いたしました。間質性肺炎とは、肺に慢性的な炎症や線維化が生じ、呼吸機能が徐々に低下していく病気の総称です。原因は多彩で、正確な診断には様々な専門的視点からの評価が必要です。進行すると息切れや咳などの症状が強くなり、日常生活に大きな影響を及ぼしますが、早期に診断・治療を開始することで病状の進展を抑えることが可能です。

当科では、診断精度を高めるために経気管支的クライオ肺生検を積極的に実施しており、これまでに100例を超える症例を経験してきました。手術より患者さんの負担が少なく、良好な肺の検体が採取できます。また、Web会議システムを活用した多職種合同カンファレンス(MDD)を定期的に行い、病理部、放射線科、膠原病内科、皮膚科、循環器内科、リハビリテーション科など、当院の誇る各分野のエキスパートと密に連携しながら総合的な診断を行っています。

開始から5ヶ月で、すでに40名ほどの新規患者さんをご紹介いただいております。地域の先生方や住民の皆様のご理解・ご協力に深く感謝申し上げます。間質性肺炎は早期発見が何より重要です。軽症例や疑いの段階でも構いませんので、どうぞ積極的にご紹介いただければ幸いです。今後も当科では、地域と連携しながら診療の向上に努めてまいります。



▲ 経気管支的クライオ肺生検の様子

ご寄附のお願い 旭川医科大学基金は教育および研究活動を充実し、地域医療に根ざした医療・福祉のさらなる向上を目指しています。

◆基金全般 ◆修学支援 ◆研究等支援 ◆地域医療支援 ◆看護学科開設30周年記念事業
◆その他の事業 からご寄附の用途をご指定いただけます。



感謝を伝える「旭川医科大学基金 令和6年度活動報告書」を掲載中です♪
基金について詳しくはこちら→



大学の活動内容をお知らせする
公式ニュースレター発行中

毎月執筆担当が変わる「〇〇目線」、
「学長＃ひとりごと」など
ちょっと気になる話題が毎月
届きます♪ 登録はこちら→



道内初！耳管開放症に対する耳管ピン治療を開始* —新たな治療選択肢で、つらい症状の改善を期待—



耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師 熊井 琢美

日常生活に支障をきたす耳の閉塞感や自分の声のこもり。これらの不快な症状に悩まされる「耳管開放症」は、これまで明確な治療法が少なく、多くの患者が長年苦しんできました。しかし今、当院ではそのような患者の皆様に、「耳管ピン挿入術」を道内で初めて導入いたしました。

耳管開放症とは、通常閉じているはずの耳管が常にかいたまとなり、外気の圧や自声が直接中耳に伝わることで、様々な不快症状を引き起こす疾患です。軽度であれば生活習慣の見直しや保存的治療で改善する場合がありますが、中等度以上になると、漢方薬や生理食塩水の点鼻では効果が不十分なことも多く、患者のQOLに大きな影響を及ぼします。

そこで注目されているのが、耳管に特殊な医療用ピンを挿入することで開放状態を改善し、耳管本来の機能を回復させる「耳管ピン挿入術」です。ピンの挿入により空気の流れや音の伝達が正常化されることで、症状の緩和が期待されます。術後は保存的治療が無効な患者の80%(Ikeda et al, Laryngoscope 2020)で有効性が確認されています。さらに、症状が再発した場合にも再挿入が可能であり、可逆性と安全性を兼ね備えた治療法として注目されています。

当院では、学会認定* 耳管ピン手術実施医による診断と、患者一人ひとりの耳管形態や症状に応じた個別対応を行っております。全ての患者に有効な治療ではないので、耳管機能検査や聴力検査、内視鏡検査を組み合わせた総合的な評価により、適応の有無を慎重に判断し、最も効果的なタイミングでの治療を提案いたします。

耳閉感や自声強聴などのお悩みをお持ちの方は、ぜひ一度、近くの耳鼻咽喉科でご相談の上、当院の耳鼻咽喉科に紹介受診頂ければと思います。耳管開放症に対するアプローチとして、耳管ピン挿入術は新たな選択肢となり得ます。

* 難治性耳管開放症に対する「耳管ピン手術」は保険適用の外科的治療です。一般社団法人 日本耳科学会による耳管ピン手術実施医制度で認定された耳管ピン手術実施医・実施施設において行われなければならない、令和7年7月1日現在、北海道内での耳管ピン手術実施医は熊井医師のみ、実施できる施設は当院のみとなっております。

問合せ先：旭川医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

がん患者サロン「ほっとピア」「ほっとピアセミナー」をご存じですか？



がん相談支援センター がん専門相談員（看護師） 鎌仲 知美

がんのピア・サポートという言葉をご存じでしょうか。がんを体験した仲間（ピア）が相互に助け合う（サポート）ことです。当院では平成23年からがん患者サロン「ほっとピア」と名づけ開催してきました。COVID-19の流行により一時期は休止していましたが、現在は3ヶ月おきに開催しています。

がん患者さんまたはご家族であればどなたでも参加できます。一度の開催で4～8名程度の方が様々な悩みや体験を共有し、「一人ではないと感じた」「他の人の体験を聞いて力を貰った」と笑顔で帰っていかれます。当院の「ほっとピア」には専従のピア・サポーターはおりませんが、がん専門相談員が常駐しています。

さて、現在はインターネットの普及により様々ながん情報が溢れています。役に立つ情報もあれば不確かな情報も混在しているため注意が必要です。平成24年から「ほっとピアセミナー」と題して地域の医療従事者や市民を対象としてがん診療やケア等に関するセミナーを開催してきました。COVID-19流行後はWeb(Zoom)開催となりましたが、各分野の専門家の協力を得ながら今年度は10月に「栄養」、11月に「運動」、1月に「美容」に関するテーマで開催を予定しています。「ほっとピア」とあわせてホームページ、院内掲示等でご確認ください。腫瘍センターのホームページで見逃し配信も予定しています。最後になりましたが、医療者の皆様には講師依頼の際、いつもご快諾頂き大変感謝申し上げます。今後とも「ほっとピア」「ほっとピアセミナー」をよろしくお願い致します。



令和7年度第1回医療的ケア児支援講演会を開催

報告

「ここからはじまる・ひろがる 医療的ケア児の学校生活を考える
～1型糖尿病当事者が伝えたいこと～」

看護職キャリア支援センター

医療的ケア児支援講演会を令和7年8月6日に開催しました。会場参加45名、Zoom参加134名、合計179名と、多くの方々にご参加いただきました。

最初に、旭川医科大学小児科医員の山村日向子先生より「1型糖尿病ってなに？～小児科の診察室から～」と題して、1型糖尿病に関する基本的な知識、修学に向けた準備の重要性についてご講演いただきました。

続いて、1型糖尿病当事者である梶屋諒人様より「僕が走る理由～自転車と挫折と音楽という夢～」をテーマに、糖尿病と向き合いながら学校生活を送る困難さ、それを乗り越え夢を追い挑戦し続ける姿、そしてその過程における葛藤を語っていただきました。さらに、教育者であり諒人様の父親でもある梶屋明広様からは、当事者を支える家族のあり方や、学校関係者との協働の重要性について示唆に富むお話をいただきました。

次に、1型糖尿病当事者である田村鈴花様からは「うまくやりな～合理的配慮の使い方」と題して、1型糖尿病を発症してからの学校生活における教員・養護教諭・クラスメートとの関わり、学校における合理的配慮のあり方について、具体的な経験をもとにお話しいただきました。

医療的ケア児をめぐる支援においては、学校と医療機関、家庭、地域がより一層連携し、当事者が安心して学校生活を送れる環境づくりを推進していくことが求められます。今後もこうした学びの場を継続的に提供し、医療的ケア児とその家族がより安心して学校生活を送れる社会の実現に貢献してまいります。



報告

夏休みキッズスクール開催

二輪草センター

令和7年7月24日・25日の2日間、夏休みキッズスクールを開催しました。連日猛暑日が続いている中、各日15名・計30名のこども達が元気に参加してくれました。

《特別授業》は臨床検査技師の佐藤多嘉之先生による『りんしょうけんさぎしのおしごと』、《工作》では色塩を使って『ジェルソルトアート』を作りました。《おやつ作り》では『フローズンヨーグルト』『チョコバナナマシュマロ』を作り、《学生の活動》では『新聞紙じゃんけん』や『フラフープくぐり』などの室内ゲームで盛り上がりしました。

キッズスクールで過ごした1日が、こども達にとって楽しい夏の思い出のひとつになれば嬉しいです。



報告

クリニクラウンがやってきた！

経営企画課

令和7年7月30日(水)、旭川医科大学病院の4階西病棟(小児病棟)に「クリニクラウン」*がやってきました！

今回は、「うえ」と「まめたん」がみんなに会いに来てくれました。楽しみに待っていた入院中の子どもたちが、クリニクラウンと一緒にクイズをしたり、踊ったり、皿まわしをしたりして、楽しい交流の時間を過ごしました。さまざまな制限の中で入院生活を送り、クリニ

クラウンに会えるのを楽しみに待っていた子どもたちとご家族に、たくさんの笑顔をお届けしてくれました。

子どもたちの笑顔が医師、看護師、病棟保育士たちにも元気を与え、病棟を明るくしてくれました。

* 病院(クリニック)を訪問する道化師(クラウン)のこと。入院生活を送るこどもの病室を定期的に訪問し、遊びや関わり(コミュニケーション)を通じて、こどもたちの成長をサポートしています。(日本クリニクラウン協会ホームページより抜粋)



報告

第1回ドクターカー事例検討会を開催

救命救急センター 救急救命士 大滝 達也

本年4月から旭川医科大学病院の新たな医療資格者として採用されました、救急救命士の大滝です。主な業務内容は、ドクターカー関連業務、救急外来での診療補助、近隣消防本部との各種調整、救急救命士の学生への実習指導になります。

さて、2025年7月3日(木)、緑が丘テラスにて救急医学講座主催の「第1回 旭川医科大学病院ドクターカー事例検討会」を開催いたしました。本会は、これまで救命救急センター内で実施していた事例検討を、より広く地域の救急関係者と共有することを目的としたものです。当日は、道北圏の救急隊員62名と当院職員27名、計89名の皆様にご参加いただき、予想を大きく上回る盛会となりました。

検討症例は「自宅分娩に対してドクターカーが要請された事例」であり、多くの救急隊員にとって関心の高い内容でした。事例に出動した旭川市消防本部の救急隊および救急科の千葉凌先生の発表に加え、周産母子センターから金井麻子先生(産婦人科)と野原史勝先生(新生児科)にもご登壇いただき、それぞれの専門的立場から貴重なご講演を賜りました。会場からは活発な意見や質問が寄せられ、大変有意義な検討会となりました。

さらに、7月には病院前救急での救急医療への参画を拡充することを目的に、ドクターカーの要請基準を改定いたしました。今後も消防機関と連携を深めつつ、ドクターカーを有効に活用することで、地域の皆様により安心・安全な救急医療を提供できるよう努めてまいります。高度な医療の提供は当院の重要な役割であることから、これからも積極的に、旭川市・道北圏の救急医療体制および救急医療の質の向上に寄与してまいりたいと考えております。



報告

多職種交流会を開催しました

多職種交流会発起人代表 薬剤部長 田崎 嘉一

令和7年6月26日(木)、病院会議室において多職種交流会を開催し、医師、看護部、リハビリテーション部、薬剤部、手術部、臨床検査・輸血部、放射線部、栄養管理部、臨床研究支援センター、事務職の各部門から合計24名が参加し、職種の枠を超えた有意義な交流の場となりました。

この交流会は、職種の垣根を越えた意見交換を通じて、相互理解を深め、より良いチーム医療の実現を目指すことを目的に行われているものです。当日は小グループに分かれ、設定された3つのテーマに基づいて意見交換を行いました。

それぞれのグループでは、日々の業務ではなかなか得られない他職種の考え方や価値観に触れることが

ができ、活発で前向きな対話が繰り広げられました。

参加者の感想からは、次のような声が寄せられました。

「顔は知っていたけれど、話してみても初めてその人となりが分かった」、「他部署の良いところを自部署に取り入れたいと思えた」、「話すことで、自分の考えを言語化する難しさと大切さに気づいた」等これらの声からも分かるように、交流を通じて相互理解が深まり、参加者一人ひとりが新たな視点や気づきを得る有意義な時間となりました。

今後もこのような交流を継続し、良好な職場環境づくりとチーム医療の推進に努めてまいります。



シリーズ 診療科紹介

内科（糖尿病・内分泌内科）／（リウマチ・膠原病内科）

内科学講座（内分泌・代謝・膠原病内科学分野） 教授 野本 博司

旭川医科大学の設立とともに内科学第二講座（通称第二内科）として歴史を刻んできた当教室は、内科学講座の再編に伴いまして糖尿病・内分泌ならびにリウマチ・膠原病を主な専門とする「内分泌・代謝・膠原病内科学分野」としての新たな船出を迎えています。当教室が診療を担当する疾患群は、いわゆる“common disease”から高い専門性が必要なものまで多方面に及びます。そして全身を診たうえで、患者さんの治療とさらにその先を見据える必要がある診療科です。内科医としての“generality”を背景に確固たる“subspeciality”を持ち、患者さんに寄り添える医療を目指しています。

糖尿病・内分泌内科では、糖尿病を始めとする代謝性疾患や肥満症、内分泌疾患に対する診療を行っています。日進月歩で進化する治療薬や検査デバイスに対応し、常に最新の医療技術を提供できるよう基礎研究・臨床研究も含め尽力しております。内分泌疾患の診療は、甲状腺疾患や副腎疾患、視床下部・下垂体疾患など多岐にわたります。様々な診療科のご助力をいただきながら診断及び治療を行っています。

リウマチ・膠原病内科では、関節リウマチや全身性エリテマトーデスなどの膠原病疾患全般に対する専門診療を担当しています。典型的症例はもとより、診断が困難であった症例、合併症などにより治療が困難であった症例などについて、院内他科との連携を含めた総合的診療を展開しています。近年、膠原病および類縁疾患の治療は、新規薬剤の登場、適応追加などに伴い新たな局面を迎えています。治療の高度化に対応し、より良い疾患予後を実現させる専門診療に取り組んでいます。

当学がカバーすべき広い医療圏において、より良い地域社会のために活躍できるよう、これからもスタッフ一同尽力させていただきます。

シリーズ 診療科紹介

内科（消化器内科）／（血液内科）

内科学講座（消化器内科学分野） 教授 藤谷 幹浩

消化器内科は、2023年10月の内科再編により、旧内科学第二講座と旧内科学第三講座の消化器グループが統合され、新体制を構築しました。これまで以上に積極的に、食道・胃・腸・肝臓・膵臓・胆道など幅広い消化器疾患の診療と研究を推進しています。さらに、道北・道東の多くの医療施設への医師派遣や医療連携を通じて、地域医療にも貢献しています。

当科では、胃・大腸などの消化管がんや炎症性腸疾患、膵・胆道の炎症やがん、慢性肝炎や肝硬変、肝臓がんなど、多岐にわたる疾患に対応しています。内視鏡検査・内視鏡治療や超音波検査では、最新の機器と技術を活用し、早期発見・早期治療を目指すとともに、患者さんの体への負担軽減にも努めています。また、がんや難治性疾患に関する基礎研究から臨床研究まで積極的に取り組み、得られた最新の知見を診療に還元することで、質の高い医療の提供を心がけています。

今後も、旭川市および近隣地域、道北・道東地域の消化器疾患医療の中核として、皆様の健康を守ることに全力を尽くしてまいります。

内科学講座（血液内科学分野） 講師 高橋 秀一郎

血液内科は、同じく2023年10月の内科再編により、旧内科学第三講座から独立し、内科学講座血液内科学分野となりました。当科では、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器腫瘍に加え、骨髄異形成症候群や再生不良性貧血などの骨髄不全症、免疫性血小板減少症や血友病などの血栓・止血疾患まで、幅広く血液疾患の症例を受け入れております。また、特定機能病院として造血幹細胞移植やキメラ抗原受容体T細胞療法（CAR-T細胞療法）などの最先端医療の提供に加え、将来の医療を支える人材育成、基礎研究・臨床研究による新しい知見の創出にも取り組んでおります。さらに、地域医療を支える病院としての役割も果たせるよう、日々努力しております。

道北・オホーツクエリアの中核病院として、今後も質の高い医療の提供に尽力して参りますので、どうぞよろしくお願い致します。



薬剤部

新薬紹介 (88) パチロマーソルビテクスカルシウム

(ビルタサ®懸濁用散分包8.4g)

薬品情報室 寺川 央一

パチロマーソルビテクスカルシウム(商品名: ビルタサ®懸濁用散分包8.4g、以下本剤)は、2025年3月発売の新規カリウム(以下K)吸着薬であり、高K血症に適応を有する。当院では院外専用として採用している。

高K血症は、Kの尿中排泄量の低下や細胞外への移動などにより、血清K値が上昇した状態である。軽度の症状は吐き気等があり、治療法は原因疾患の治療、原因薬剤の中止、利尿薬・K吸着薬の使用が挙げられる。重度の症状は筋力低下、不整脈等があり、治療法はグルコース・インスリン療法や血液透析などが実施される。

本剤は非吸収性の陽イオン吸着ポリマーであり、結腸管腔でKを吸着し、糞便中へのK排泄を増加させることで、血清K値を低下させる。同種薬の中では、ナトリウムを含まないため、浮腫を起こしにくいとされる。また、食塩制限などが推奨される慢性腎臓病や心不全を併発する高K血症患者への治療に期待されている。

用法・用量は通常、8.4gを開始し、水で懸濁して1日1回経口投与する。以降、血清K値や患者状態に応じて適宜増減するが、最高用量は1日1回25.2gである。

本剤は膨潤するため、腸閉塞に禁忌となっている。また、重大な副作用として、低K血症、腸管穿孔、腸閉塞が報告されている。腸管穿孔、腸閉塞の早期発見のため、患者さんに排便状況を確認させ、便秘に引き続き持続する腹痛、嘔吐などの症状が現れた場合は、医師などに相談するよう指導する必要がある。

本剤はキノロン系抗菌薬や甲状腺ホルモン製剤、メトホルミン塩酸塩の吸収を低下させる相互作用がある。これらと併用する場合は、3時間以上空けて服用する必要があるため、ご留意いただきたい。

臨床検査・輸血部

全診療科の外来患者を対象としたスクリーニング超音波検査の運用開始

採血・生理・超音波部門 阿部 剛大

いつも適正な検査依頼にご協力いただきましてありがとうございます。超音波画像診断センターでは2025年5月21日より全診療科の外来患者を対象としたスクリーニング超音波検査の運用を開始しました。検査項目は心臓、頸動脈および下肢深部静脈(DVT)です。検査枠は平日の14時と15時に設けています。これまでは専門診療科からの依頼にのみ対応可能でしたが、外来患者かつスクリーニング目的の検査に限り、全診療科から依頼をお受けすることが可能になりました(入院患者や、外来患者のうち精査を目的とする検査依頼の場合は従来通り専門診療科への受診をお願いします)。

また、超音波検査の入力画面が複雑となっていた状況を改善するために依頼画面のレイアウトを変更しました。スクリーニング超音波検査の依頼は、下図のように「*1.生理依頼」から「超音波(全科対応)」のタブを開き、該当する検査項目を選択することで入力できます(旧第一内科、旧第一外科および脳神経外科(頸動脈のみ)からの依頼は従来通り「超音波(専門領域)」タブから入力をお願いします)。

臨床にさらなる貢献ができるようスタッフ一丸となって取り組んでいきますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

*1. 生理依頼	*2. 各科検査	*3. 術中検査	*4. 術前検査
1. 循環器			
2. 呼吸器			
3. 脳波			
4. 筋電図			
5. 大脳誘発電位			
6. 超音波検査(専門領域)			
7. 超音波検査(全科対応)			
8. 皮膚灌流圧測定(SPP)			
9. 24時間血圧測定検査			

選択: 超音波検査 (全科対応)	
【外来患者はこちら】	
01. 腹部エコー	01. 胆
02. 甲状腺エコー	02. 甲
03. 心臓スクリーニング	03. 心
04. 頸動脈スクリーニング	
05. DVTスクリーニング	

第2回 旭川医科大学 クラウドファンディング ドクターカー更新にご支援ください。 地域医療を守るため、ともに走ろう！ 10月22日(水)募集開始



2010年に開設し本年で15周年を迎える救命救急センターは、救急医を目指す若者が増加し、新たに院内救急救命士が加わり、さらに充実した救急医療体制を目指しています。ドクターカー出動件数は過去最多のペースで増加しており、地域の病院前医療体制の充実にも貢献しています。広大な地域医療圏における救急医療を支え、DMATカーとしても胆振東部地震や能登半島地震では被災地へ出動して災害支援活動を行ってきたドクターカーですが、耐用年数を超過し、過酷な救急・災害現場での使用にも限界が近づいています。

このたび、今後も地域の救急診療体制を担う当院の役割を維持するために不可欠な、ドクターカー更新を目指すクラウドファンディングを実施することにいたしました。皆様からの温かいご支援を、心よりお願い申し上げます。



報告

旭川市と共催「地域からはじめる意思決定支援セミナー」を行いました

がん看護専門看護師 國本 紅美子 清水 知沙 三栖 あずさ 江口 卓也
老人看護専門看護師 金 絵理

看護部専門看護師委員会では、2018年度から意思決定支援セミナーを開催し、アドバンス・ケア・プランニング(以下、ACP)の普及啓発活動を行ってきました。2025年度は、旭川市福祉保険部 長寿社会課地域支援係と対話を重ね、地域包括支援センター職員を対象としたACPセミナーを担当しました。多職種でACP実践の課題や重要性について意見を交わし、対象者はどんなことを思っているのか、関わる人たちが皆で話し合い、繋がっていくことの大切さについて考える時間となりました。秋には、認知症カフェのボランティア向けセミナーを予定しています。住み慣れた地域でその人らしく生きることを支える活動をこれからも続けていきたいと思います。



令和7年度 患者数等統計

(経営企画課)

区分	外来 患者延数	一日平均 外来 患者数	院外 処方箋 発行率	初診 患者数	紹介割合	入院 患者延数	一日平均 入院 患者数	病床 稼働率	前年度 病床 稼働率	平均 在院日数 (一般病床)
	人	人	%	人	%	人	人	%	%	日
4月	28,897	1,376.0	97.7	1,086	100.4	13,597	453.2	81.7	76.3	10.4
5月	27,188	1,359.4	97.8	1,013	100.1	13,933	449.5	81.0	74.2	10.3
6月	28,415	1,353.1	97.8	1,056	102.7	13,456	448.5	80.8	74.7	10.0
計	84,500	1,362.9	97.8	3,155	101.1	40,986	450.4	81.2	76.4	10.2
累計	84,500	1,362.9	97.8	3,155	101.1	40,986	450.4	81.2	76.4	10.2

時事ニュース

- ・不在者投票 9月2日(火)
- ・市民公開講座・基金「感謝の集い」 8月24日(日)
- ・オープンキャンパス 7月30日(水)～7月31日(木)
- ・オープンホスピタル 9月27日(土)
- ・公開講座「健康寿命100歳達成のための秘訣」
9月3日(水)、9月10日(水)、9月17日(水)
10月2日(木)、10月9日(木)



編集後記

「今年の日ハムは観ないと人生、損するよ」と息子に言われ、誘われるままエスコンフィールドへ。この日の日ハムは首位ソフトバンクと1ゲーム差、熱気に溢れるファン。予習不足の私は、ファンとの温度差に戸惑いながら応援席へ。試合は水谷の先制点やレイエスのホームランで日ハムがリード。周囲が選手応援歌を歌い盛り上がる中、日ハムリードにより、値下げとなった生ビールに歓喜の声を上げる私。喜ぶ観点が異なっても野球観戦は楽しめることを知った。

看護部患者総合サポートセンター担当 佐藤こずえ